

弘大『キャリア@通信』 vol.002

弘前大学学生就職支援センター

〈Voice①〉『ひとつひとつ重みのある仕事』

六花亭製菓株式会社

山田 理衣奈さん (平成22年 人文学部卒)

〈Voice②〉『一生懸命やってみること』

青い森鉄道株式会社

久保田 聡さん (平成元年 教育学部卒)

〈Voice③〉『育ててもらっています』

岩手県久慈農業改良普及センター

菊池 奈美さん (平成21年 農学生命科学部卒)

●弘前大学フォーラム

『地域とともに育む大学生の就業力』

文部科学省「大学生の就業力育成事業」に採択された課題をテーマに基調講演と学生の成果発表がありました。

●コラム『セレンディピティ』

“偶然の幸せをつかむ能力”とは...

●北海道企業見学会・東京企業見学会

弘前大学OBとの懇談会

●information

弘前大学東京事務所のご案内

弘前大学主催 合同企業説明会

キャリア@通信 Voice①

いつも笑顔で!

“ひとつひとつ重みのある仕事”

六花亭製菓株式会社
帯広販売部 西三条店

やまだ りいな
山田 理衣奈さん
(平成22年人文学部卒 23歳)



お客様のニーズを見極め、 笑顔で接客!

●現在どのようなお仕事をされていますか。

販売部に所属しています。店頭での接客が大切な仕事になります。また店頭でお客様の対応をするだけでなく、店内の清掃に始まり、品出しや在庫管理、閉店後のレジ閉めまで全てをこなします。

接客する際に意識していることは、お客様に気持ちよく、笑顔で帰ってもらえるようにすること。そのためにはやっぱり、お客様に対して「笑顔で接客すること」が一番大事です。接客時に笑顔がないと、どんなに美味しいお菓子を扱っていても、「雰囲気がよくない」というイメージになり、お客様はまた来てくれないと思います。お店に出てお客様の顔を見ると自然に笑顔になれます。

お客様から「ありがとう」と言われたり、作業に徐々に慣れてきて、自分の仕事が効率よく出来たと感じることにやりがいを感じますね。

辛かったことも、もちろんあります。自分ではうまく出来ていると思っていた仕事も、お客様にとってはそうではなく、苦情を受けたことです。例えば、丁寧に包装することがお客様のためと考え、丁寧に包装をしていたら、実際は急いでいるお客様で素早い対応を求められていたこともありました。お客様のニーズを見極め対応することが大切なのだ気づきました。

接客する上でもう一つ、商品の知識について勉強することも重要です。値段を覚えることはもちろん、その商品がどのように作られ、どんな味がするのか。お客様にご案内できるように、工場に勤務する同期から話を聞いていま



六花亭さんの商品。北海道を代表する美味しいお菓子がたくさんあります。

す。実際食べてみて味を確かめたりもしています。きちんと知ってお客様に説明できたらいいなと思っています。

ワークライフバランスを 進めている企業です

●六花亭に入社を決めた理由はなんですか。

帯広市出身なので、北海道で働ける企業を希望していました。子どもの頃からとても身近なお店でした。身近にありすぎてわかりませんでした。就職活動をしている中で、道外の人でも知っている、とても有名な企業なのだ改めて気付きました。「お菓子は六花亭だね」と言っていたことがとても嬉しいです。

ワークライフバランス(仕事と生活の調和)に力を入れている会社です。有給休暇もしっかり取るように会社がすすめています。結婚したり、育児休暇をとったり、仕事を続けることができる会社です。今お腹の大きい先輩も職場にいます。勤務はシフト制なので、時間を交代して働きます。

●新入社員研修は どうでしたか。

入社前研修が10日ほどありました。これは全体研修ですね。その後2週

間ぐらい販売部の研修を行い、そして店舗の研修に入ります。実習生バッチを付けて1カ月ぐらい色々な仕事を学びます。包装の試験もありました。店長の合格をもらい、そして販売部総括の合格をもらえると実習生バッチがはずれます。嬉しかったですね。研修の間はシスター制というものがあった、私に先輩がひとりついていただけます。とても心強かったです。

●これからの目標を教えてください。

一番近い目標は新人賞をとることです。社内表彰が充実していて、優秀社員賞や新人賞、月間MVP賞など表彰が年に数回あります。目標があると、モチベーションがあがります。「次こそは!」と思って頑張っているところです。

全体の状況を把握して行動できる人になりたいです。六花亭はお客様に列を作ってもらってはしません。だから先に来られたお客様がわからなくなってしまうのはいけません。先輩はお客様に適宜対応しているだけでなく、お店全体の状況を見て、販売員の状況まで把握して自分の行動を考えています。私もそんな人になりたいです。

ひとつひとつ重みのある 仕事をしていると感じます

●学生生活について教えてください。

学生時代、勉強は頑張りました。ほかにフットサルのマネージャーをやっていました。パン屋でアルバイトもしていました。アルバイトは今の仕事に役立っていますが、当時と今では責任感が違いますね。その時も、一生懸命にやっていたのですが、特に何も考えずにただ販売していました。今は、ひとつひとつ重みのある仕事をしているな、と感じます。

●社会人と学生の一番の違いは何ですか。

時間の使い方が全く違います。学生の時は、ある程度時間に余裕があり、自由に時間を使っていたと思います。社会人になってからは、特に夜更かしはしません。次の日に影響が出るといけないので。コンディション管理について考え、動くようになりました。

大学の友達は一生涯の ぜひ大事にしてください

●弘大生の後輩に何かメッセージをお願いします。

特に友達との時間を大切にしてほしいですね。就職先は首都圏や北海道など様々。さらに休日が合わず、集まることが難しくなります。そんな中でも、卒業してからもお互いに近況報告をしたり、連絡を取り合い、なんとか時間を合わせ集まったりしています。

大学時代の友達は一生ものだと思います。ぜひ大事にしてください。

●本日は有り難うございました。

2/17取材/インタビュー
相馬明子(人文学部1年)



明るい笑顔でお客様をむかえる
帯広西三条店に勤務する山田さん。

コラム 『セレンディピティ』 “偶然の幸せをつかむ能力”とは..

学生就職支援センター
副センター長 小磯重隆



このコラムではキャリア論のご紹介をしていきます。今回は『セレンディピティ~偶然の幸せをつかむ能力』です。就職活動では「自己分析」や「企業研究」をして“やりたい仕事”を探すものだと考える人がいます。もちろん目標や目指す企業が決まっていれば良いのかもしれませんが、簡単ではありません。『偶然』も大切です。たまたま出会ったもの、より道をして知ったもの、そんな偶然の中にこそ、自分にとっての幸せがあるかもしれません。

セレンディピティという言葉は、イギリスの文筆家であるホリス・ウォルポールが造語したものです。幼い時に読んだ『セレンディップの3人の王子』という童話にちなみだもので、『偶然と才気によって、さがしてもいなかったものを発見する』という意味です。



この物語は、3人の王子たちが旅の途中でいろいろな出来事に出会い、もちまへの才気と推理力、そして勇気で思わぬ(さがしてもいなかった)ものを発見したり、幸運をつかんだりする話です。ラクダ泥棒に間違われた縁で王様に重用され、魔物を退治したり、素敵な女性とも出会います。現在のスリランカ(セイロン)のおとぎ話です。

ノーベル賞をもらう科学者はセレンディピティがあると云われます。単なる偶然ではなく、“偶然を生かす”ことが大切です。目の前の問題や物事に真剣に取り組む中で、思いがけない発見や出会いに気がつくのです。幸運は誰の前にもある。問題はその幸運をつかみとる力です。自分の進路や就職やキャリアも同じではないでしょうか。視野を広げてみれば、思いもなかった会社や職種が見えてきます。偶然から幸せがつかめるはずですよ。(ちなみに、物語そのものは、あまり面白くないです。あくまで個人の感想ですが...)



キャリア@通信 Voice②

大切なことは
「一生懸命やってみること」

青い森鉄道株式会社
総務企画課長

くぼた さとし
久保田 聡さん
(平成元年教育学部卒業 44歳)

新幹線開業に合わせて、 全線開業準備をしていました

●現在どのようなお仕事をされていますか。

平成22年12月に青い森鉄道は全線開業となりました。東北新幹線の新青森までの延伸に合わせて、並行在来線である従来の岩手県境の「目時～八戸」間の25.9キロから「八戸～青森」までの96キロをJRさんから引継ぐことになり、「青森」までの延伸準備をしていました。全線開業準備のため、新入社員の採用も担当し、研修・養成も行っていきます。昨年の3月までは本社のあった八戸に単身赴任をしていましたが、八戸から青森に本社が移転した今は青森の本社に弘前から通勤しています。全線開業後は、総務、企画、広報の他、会社体制の整備の仕事をしています。仕事はたくさんあって、パンフレットの作成や取材の対応などもあります。会社として必要な区分けできない仕事はすべて担っていますね。

実は大学卒業後、青森県庁に採用され、現在は県職員としての立場と青い森鉄道の立場と二つあります。県庁の並行在来線対策室という部署にも席が

あり、県と会社との連絡調整もしています。

●県庁時代はどのようなお仕事をされていたのですか。

電気職として目屋ダムの岩木川第一発電所に3年ほど勤務しました。仕事内容は水力発電所の維持管理のほかに、電線の保守管理です。ダムのごみを拾ったりもしました。夜勤でダムの水量調節をしていたこともあります。現在している仕事とはまったく違う内容の仕事ですね。

その後、本庁に異動して、また全然違う、県職員の給料全部を電算処理する情報システム課で働きました。水田の転作の保障に関わる仕事もしましたし、県営住宅のシステム開発もしました。さまざまな部署を経験し、この仕



青森駅発の「青い森鉄道」。大切な地域の公共交通です。

事にたどり着いています。

大学時代は物理を専攻していて、電磁気と弱電関係のゼミに在籍していました。

大変な仕事だけれど、 実感できる大きなやりがい

●全線開業の準備は大変でしたか。

担当となった時から大変な仕事になると覚悟していました。JRさんからの引継ぎの中で、システムがうまくつながらないのではないかという不安もありました。開業準備はもちろん忙しい仕事でしたが、さまざまなトラブルを乗り越えて、全線開業することができました。

仕事で大切なのは、少しでも運行状況を迅速に、より正確に利用者に伝えることです。クレームも多くいただき、それだけ利用者が多く、地域と密着しているのだと実感します。JRさんと調整しながら、企画や宣伝も行います。県や市町村との連携もあります。多様なニーズに対応できるような細かい企画の提案をしていきたいです。地域づくりとセットで鉄道の将来を考えていきたいと思っています。

3月11日に発生した東北地方太平洋

沖地震で被災した方々のためにも、青い森鉄道は早く運行を再開し、交通機関としての責務を果たすとともに、沿線の地域と協力して、被災した方々の役に立ちたいと考えております。

職場に弘大卒の新入社員が 二人います

●二人の後輩はいかがですか。

よくやってくれています。本人たちを前に言いにくいですが…。同じ職場で二人とも弘大の卒業生ですよ(写真参照)。

「仕事は忙しいです。給与の処理を担当していますが、教えてくれる先輩が八戸に残ったので、2～3カ月で仕事を覚えなければなりません(細井)。」

「所属が総務企画課なので、一年目で色々な仕事の経験をしました。全線開業式典準備の仕事も担当させていただきました(石田)」

学生時代、いろいろなアルバイト を経験しました

●久保田さんは、どんな学生だったのですか。

アルバイトもたくさんやっていました。ガソリンスタンド、リンゴの荷受

け、郵便局で現金書留の配達や塾の講師など、学業と両立して、隙間無く働いていました。バイト料はスポーツ道具を購入したりで、無くなってしまいました。高校時代にボクシングをやっていたこともあって、知人の勧めで極真空手をしていました。3年生のときにはほぼ単位も取り終えていましたよ。卒論はいい加減でしたが、今でもあれでよかったのかなと思いますね。

失敗がきっかけで、今の仕事 に就いています

●就職活動はどのようにすすめていきましたか。

教育学部だったので教員になるつもりでした。また青森県で就職したいと思っていたので、地元でしっかり働ける県職員も受けました。最初に県庁の採用試験があって、合格したのですが、希望していた教員の方は採用されませんでした。試験の手応えからは大丈夫だと思っていたので予想外でした。今でもなぜ落ちたのか自分でも不思議なんです…。そのときの失敗が今の仕事に就ききっかけになっています。

就職活動が上手くいかずに悩んでいる皆さんには、いろんな可能

性があります。あきらめないで頑張ってくださいと思います。

●弘大の後輩に何かメッセージをお願いします。

学生時代には自分でも想像していなかった職場で働いています。その中でさまざまなやりがいを感じる事がたくさんあります。失敗し自分の思い通りの道に進めなかったとしても、そこで何を一生懸命になってやるのかが大事なことです。何かに一生懸命に取り組んで学生時代を有意義に過ごして欲しいと思います。

●本日は有り難うございました。

2/23・3/16取材/インタビュー
江利山結美(人文学部1年)



写真右側から細井麻子さん、石田有香莉さん。平成22年入社で活躍している弘前大学の卒業生です。

弘前大学フォーラム

「地域とともに育む大学生の就業力」



文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」は入学から卒業までの間を通じた全学的かつ体系的な指導を行い、大学生の社会的・職業的自立が図られるよう、大学の教育改革の取組を国として支援するものです。

平成23年1月26日ベストウェスタンホテルニューシティ弘前にて、本学で採択された課題「地域企業との対話を通して培う企画提案力」をテーマに、2つの基調講演と、学生による地域企業の抱える経営課題を素材に行った課題解決型学習の成果発表が行われました。



遠藤学長による開会挨拶。地域企業、行政および各種団体等との強力な連携・協働の下、学生の企画提案力を育成するとともに、地域を担う人材を育成します。



弘前大学の採択課題【地域企業との対話を通して培う企画提案力】この取組は、地域企業の抱える経営課題を素材に課題解決型学習を実施し、学生の企画提案力を育成するとともに、地域における雇用機会の拡大を目指し、実施するものです。人文学部 森樹男先生を中心に、平成22年度より5ヶ年の計画で推進されています。

キャリア@通信 Voice③

技術指導しながらも
“育ててもらっています”

岩手県久慈
農業改良普及センター 技師

きくち なみ
菊池 奈美 さん
(平成21年農学生命科学部卒 24歳)



農家さんの所得向上に 取り組みたい

●現在どのようなお仕事をされていますか。

岩手県の農業改良普及センター職員として、農家さんを訪問して技術指導をする仕事をしています。私は主に果樹を担当しています。今年の生育状況を農家さんに聞いたり、病害虫等の調査を行いながら、農業に関する情報を提供します。情報だけでなく、農家さんの所得向上に取り組んでいます。手取が増えないという状況の中、「所得をいかに向上させるか」が現在の課題です。これは県職員になって取り組みたい仕事のひとつです。

農学職員として採用されると、県庁の農林水産部や北上の農業研究センターに配属されることもあります。いつかそのような場所に異動することがあるかもしれませんが、今は現場での技術指導の仕事をしっかり行いたいと思っています。

●仕事をして辛かったことはありますか。

農家さんに提案をした際に全然取り合ってもらえなかったことですね。地域の活性化にとって必要なことであり提案するのですが、忙しくてできないと、聞き入れてもらえない時がありました。何度も提案し続けました。こちら引き下がれません。

訪問先の農家さんから厳しいことを言われることもあります。でも地域の方々は優しくもあり、技術指導しながらも育ててもらっている感じがします。

●就職に向けて、どのように活動しましたか。

3年生の途中から、公務員受験のための勉強をしました。就職活動では、



久慈合同庁舎1階に展示されている地域の特産品。菊池さんの仕事に関わる商品も多い。

早い時期に企業から内定をもらう人も多いため、テキストの問題を解きながら「これでいいのだろうか」と不安でしたが、一緒に講座を受けている友人と励ましあいながら、がむしゃらに勉強しました。

私は花巻市出身で、家も農業をやっていたので、高校生の時から大学の学部や進路を考えていました。

岩手県の農学職として同期で入ったのは4人です。そのうちの3人が女性でした。

寮生活は「ときに優しく、 ときに厳しく」

●どんな学生生活でしたか。

女子寮の「朋寮」に卒業まで4年間住んで居ました。二人でひと部屋を使っていますが、部屋割は1年ごとに変ります。1年生のときに同室だった先輩はときに優しく、ときに厳しい方でした。大学生活や授業に関する様々なことを入学する前に教えていただきました。

自分が先輩になったときは、優しくするよりも厳しくするほうが難しかったです。寮の後輩とは上下関係というよりも友達感覚です。しかし、注意し

なければいけないことや寮のルールを伝えるときには、関係に溝を作らないような話し方をしなければいけません。一緒に生活する中で多くの事を学びました。

寮には食事が付いているのですが、日曜日は食事が出ません。友達と食べに行ったり、自炊もしていました。寮には「運動会」などもあります。基本的に自治寮なので、自分たちでイベントを催します。寮内のトラブルを長時間にわたって会議をして、自分たちで解決するなど、色々な経験をしました。

●社会人になって、休日は何をされているのですか。

久慈はいい街です。街の中で生活に必要なものが何でも揃います。たまに八戸に出かけることもあります。職場の先輩にサーフィンが好きな方がいるので、一緒に連れて行っていただきました。せっかく海の近くに来たので、スポーツも楽しんでいます。冬はスキーに行きます。スキーが得意な先輩も多いです。仲のよい職場だと思います。

個人としての能力よりも チームの連携が重要!

●大学のときに抱いていた職場へのイメージとの違いはありますか。

職場の説明や、先輩方の話も聞いていたので、思っていたイメージとの大

きな違いはありませんでした。しかし、一人ひとりで進める仕事が多いのかなとか、外に出て農家さんを巡回することが多く所内での仕事は少ないかなと思っていました。実際に働いてみると、もちろん、事務仕事や報告もあります。特に所内の連携が重要だということを感じました。

仕事は、各々の課題を持つ4~5人のチームで行います。個人個人の仕事も大切ですが、チームや「センター」全体として仕事を達成することが重要です。自分ができる部分では貢献でき、逆に自分ができない部分をチーム員に補ってもらいます。そういう部分では安心して仕事ができます。

●専門以外の技術で必要なものはありますか。

自動車を運転できないと仕事になりません。私は大学2年生のときに免許を取りましたが、2年間乗っていませんでした。はじめは先輩に同行してもらい、それは大変でしたね。県にある車は十数年使っている古い車が多くて、ほとんどマニュアル車です。公務員になる方はマニュアル車の免許取得をお奨めします。

職場では1人1台パソコンを持ちます。文章の作成やパワーポイントを使います。年配の方々の中には不得意な人もいますので、「自分ではできます!」

とアピールできるといいと思います。

目標を持たないと前に 進めません!

●弘大生の後輩に何かメッセージをお願いします。

自分の夢を自信を持って語る人、難題を出されたときでも前向きに考える姿勢を見せてくれる人を社会は求めていると思います。就職活動も同じです。そういった人になって欲しいですね。目標を持たないと前に進めません。小さな目標でも良いので、とにかく何かをするときには目標を持ってください。それを私も日頃から心がけています。

●本日は有り難うございました。

2/25 取材/インタビュー
山本和法 (理工学部1年)



職場のチームワークや連携が大切。仕事以外でも仲のよい職場です。



9月に北海道企業見学会、3月に 東京企業見学会が開催されました

21世紀教育「社会と私ー仕事を通して考える」「社会と私ーキャリア・デザイン論」「社会と私ーコミュニケーション力」を受講した学生各15名が参加しました。授業で感じたこと、得たことを、今度は自ら社会見学や諸先輩と話をすることで、更に深めるためのものです。9月には、北海道地域でホームマック株式会社と北海道銀行、3月には、東京地域で株式会社フジキンと野村証券株式会社を見学させていただきました。途中、東京証券取引所にも立ち寄り、実際の現場を直接見ることもできました。

午後7時、それぞれの地域で活躍している卒業生の方々にご参加いただき懇談会が開催されました。弘大OBならではの話をたくさん聞くことができました。



↑東京証券取引所で集合写真。弘前大学卒業生の方々と懇談会。

←北海道企業見学会。北海道銀行さんでは地下金庫で1億円の現金を持たせてもらいました。

弘前大学東京事務所のご案内

JR東京駅八重洲南口から徒歩3分の場所に弘前大学東京事務所があります。首都圏における活動拠点として産学官連携事業の実施、企業などのニーズと弘前大学のシーズのマッチング、広報活動、その他教育研究に関する事業を行っています。

住友生命八重洲ビル5階青森県ビジネスプラザ内
(月曜日～金曜日 午前9時15分～午後6時)



東京事務所の後藤真衣さん



大学主催『合同企業説明会』

2月9・10日 弘前大学主催「合同企業説明会」が開催されました。県内外202社、学生も2日間でのべ1,066名が参加しました。また9日は医療関係のみの説明会が本町校舎でも開催され98施設の方々にご参加いただきました。



合同企業説明会の風景 (会場：ニューシティ弘前)
学生も熱心に説明を聞きます



保健学科主催による
医療関係の説明会
(本町校舎)



Hirosaki University
Student Career Center

編集後記

弘大『キャリア@通信』の読者は学生です。社会で活躍している弘大卒業生のお話を聴くことで職業観やキャリア意識を培ってください。大学教職員のほか、皆さんを多くの先輩達がサポートしてくれます。

表紙の写真

新青森駅1階にある「あおもり旬味館」。食やお土産・特産物のお店が集まっています。新幹線の乗り換え時にぜひお立ち寄りください。右の写真は東京駅にあった「はやぶさ」デビューの掲示板。「あと1日」でした。下は弘前駅で「津軽弁」(お弁当)を販売している様子を撮影しました。



相馬 朋子 (人文学部1年)

弘大の先輩が動いているところを間近に見ることが出来て、とても刺激になりました。



古城 吉 (理工学部4年)

レンズ越しに見る先輩の姿に、働く事の楽しさと常に問われる社会人としての責任感を感じました。



江利山 結美 (人文学部1年)

社会人の方と話す機会はあまりないので、良い経験になりました。今後に役立っていきたいです。



八重樫 亜弥 (教育学部3年)

ファインダーから見える先輩方のいきいきとした表情や笑顔がとても印象に残りました。



山本 和法 (理工学部1年)

親切にさせていただいたおかげで良い雰囲気取材ができ、楽しく、ためになるお話が聞けて満足です。



弘大『キャリア@通信』vol.002 平成23年3月26日

編集・発行//弘前大学学生就職支援センター

取材学生スタッフ//相馬朋子、江利山結美、山本和法

撮影//弘前大学写真部 古城吉、八重樫亜弥

